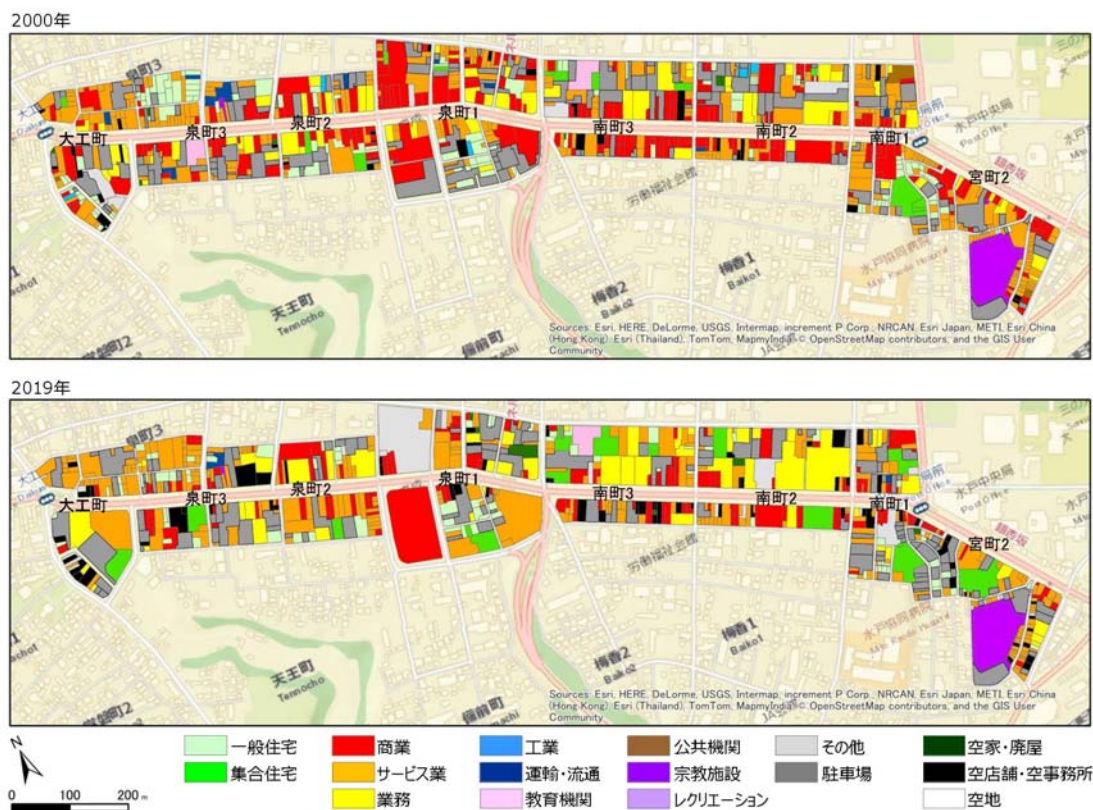


2000-2019 水戸市中心市街地空き家調査

水戸市中心市街地（水戸駅前から大工町まで）の空き家調査を行った。2000 年にも同様の調査を行っているので、下図に比較し傾向を考察した。



(2000年は兼子ほか(2002)をもとに作成。2019年は現地調査により作成。)

<考察>

2000-2019年の水戸市中心市街地は、全国の地方都市と同様に、商業（小売・販売）機能が弱まってきた。商業的土地利用の転換は地域によって異なる傾向があり、南町では主に業務（オフィス等）機能に、泉町では主にサービス業へと入れ替わってきた。また、中高層マンションも増加して、商業機能に特化した地域から、居住・オフィス・サービス業など様々な都市機能が揃う地域へと変わっている。

一方、かつては大通り沿いにはほとんどみられなかった空店舗・空事務所が、昨今は大通り沿いに多く発生している。特に、水戸駅に近い宮町二丁目では、多くの空家や空店舗が駐車場に転用されてしまい、駅から近い土地の高度利用がされていない。駐車場化される前に、空家・空店舗になってしまった物件の有効活用を促進させる必要がある。